

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 栃木県 |
|-------|-----|

学校の概要 (平成15年4月現在)

|     |             |    |    |     |    |    |      |     |     |
|-----|-------------|----|----|-----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 高根沢町立阿久津小学校 |    |    |     |    |    |      |     |     |
| 学 年 | 1年          | 2年 | 3年 | 4年  | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 3           | 2  | 3  | 3   | 2  | 3  | 2    | 18  | 25  |
| 児童数 | 100         | 73 | 88 | 103 | 78 | 97 | 6    | 545 |     |

研究の概要

1 研究主題

|  |
|--|
| 「確かな学力」の向上を目指す算数科の実践<br>～少人数授業によるきめ細かな指導の推進～ |
|--|

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科 (選択した理由)

|                                   |
|-----------------------------------|
| ・ 1～6年生 算数 (児童の理解度に差がしやすい教科であるため) |
|-----------------------------------|

(2) 年次ごとの計画

|        |   |
|--------|---|
| 平成14年度 | <p>テーマ</p> <p>「確かな学力」の向上を目指す算数科の実践<br/>～習熟度別学習によるきめ細かな指導の推進～</p> <p>仮説</p> <p>児童一人一人の理解の程度に応じたきめ細かな指導(習熟度別学習)を工夫すれば、「確かな学力」が身に付くであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>本校における学力のとらえ方の設定</p> <p>ア 研修会(講話)の開催<br/>各学年の授業研究会の推進</p> <p>ア 習熟度別学習における指導案の検討</p> <p>イ 研究授業の推進<br/>各部の研究会の推進</p> <p>ア 評価部<br/>指導に生きる適切な評価の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元, 学期毎の評価方法についての検討</li> <li>・ 数と計算領域の系統表一覧の作成</li> <li>・ 算数科の補助簿の作成</li> <li>・ 単元毎の自己評価カード作成</li> </ul> <p>イ 教材部</p> <p>発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数と計算領域の系統表に合致したワークテスト作成</li> <li>・ 個に応じたワークテスト作成</li> <li>・ レディネステスト, 事前テスト(コース分け用)作成</li> </ul> |
|--------|---|

|  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自作教材教具の保管・活用の推進</li> </ul> <p>ウ 情報部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童・保護者・教師への啓発と情報発信</li> <li>・ 児童の算数に関する意識調査と考察</li> <li>・ 教師の算数科指導に関する意識調査と考察</li> <li>・ 保護者の意識調査と考察</li> <li>・ 昨年度の観点別到達度学力検査の分析と考察</li> <li>・ 地域への情報発信（学校だより・学年だより）</li> </ul> |
|--|--|

|        |  |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ</p> <p>「確かな学力」の向上を目指す算数科の実践<br/>～少人数授業によるきめ細かな指導の推進～</p> <p>研究の見通し（仮説）<br/>児童一人一人が課題の発見や解決する喜びを感じ、主体的創造的に取り組む態度を育てれば、「確かな学力」が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>本校における学力のとらえ方の設定 <b>基礎となる力・基礎基本・生きて働く力</b>の3つのレベル 「生きて働く力」を伸ばす</p> <p>各学年の授業研究会の推進</p> <p>ア 少人数授業における指導案の検討</p> <p>イ 研究授業の推進</p> <p>ウ 授業公開の推進（全教諭授業公開・略案作成）</p> <p>エ 少人数授業の打ち合わせの時間の確保（新単元が始まる前）</p> <p>各部の研究会の推進</p> <p>ア 評価部</p> <p>指導に生きる適切な評価の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元，学期毎・総括の評価方法についての検討</li> <li>・ 数と計算領域の系統表一覧の見直しと他領域系統表一覧（図形）の作成</li> <li>・ 算数科の評価補助簿の見直し及び作成</li> <li>・ 単元毎の自己評価カード作成及び印刷</li> <li>・ A規準用語収集</li> <li>・ 自己評価カードの記入例の紹介（全学年）</li> </ul> <p>イ 教材部</p> <p>発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展的問題作成</li> <li>・ 個に応じたワークテストの教材開発（数と計算，図形領域）</li> <li>・ レディネステスト，事前テスト（コース分け用）作成及び印刷</li> <li>・ 算数的活動の事例収集及びその教材開発</li> <li>・ 14，15年度授業実践のまとめ集録</li> </ul> |
|--------|--|

|  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自作教材教具の保管・活用の推進</li> </ul> <p>ウ 情報部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・保護者・教師への啓発と情報発信</li> <li>・ 児童の算数に関する意識調査と考察</li> <li>・ 教師の算数科指導に関する意識調査と考察</li> <li>・ 保護者の意識調査と考察</li> <li>・ 昨年度の観点別到達度学力検査の分析と考察</li> <li>・ 地域への情報発信（学校だより・学年だより・保護者説明会等）</li> <li>・ 校内への情報発信（掲示物作成）(算数教室の整備)</li> <li>・ 体験的学習のできる教具の開発（長さ・重さ・量）</li> <li>・ 授業，講話等記録（写真・ビデオ・CD他）</li> </ul> <p><b>変更理由</b></p> <p><b>サブタイトルについて</b></p> <p>14年度は特に習熟度別学習にポイントを置いたが，15年度からは，<b>少人数授業</b>に変え，各学年毎時間少人数授業を基本にし，<b>単元により効果的な指導方法(少人数・習熟度・課題別等)を研究するためである。</b></p> <p><b>研究の仮説について</b></p> <p><b>子供たちの具体的な姿が見えるようにした。</b></p> |
|--|--|

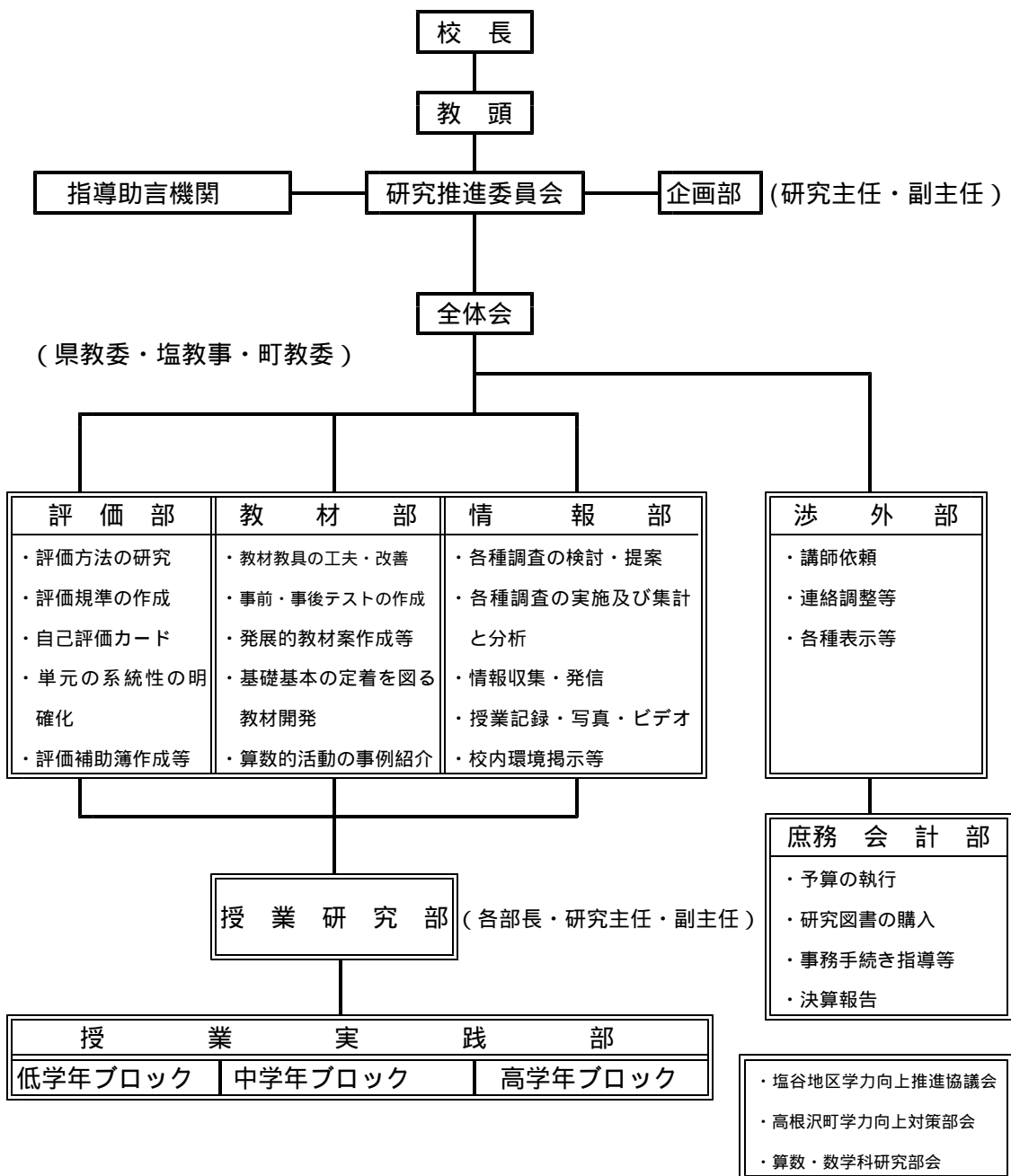
|        |  |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ</p> <p>「確かな学力」の向上を目指す算数科の実践<br/>～少人数授業によるきめ細かな指導の推進～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>児童一人一人が課題の発見や解決する喜びを感じ，主体的創造的に取り組む態度を育てれば，「確かな学力」が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成15年度の内容をさらに修正しながら実践を深化する。</li> <li>・ 3年間のデータの分析とまとめ</li> </ul> |
|--------|--|

### (3) 研究推進体制

研究体制上特に工夫している点

- ・ **各部**について：授業と密接な関係があり，**授業に生かせる部会**
- ・ **各部の構成**について：**学年1名**が必ずはいる。(授業に生かすため)
- ・ **各部の機能化**を図る：各部会を**研修時に取り入れる。**
- ・ **各部からの提案の工夫**：全体会にかけ，**共通理解を図る。** **各部速報**を出すことにより，修正案がすぐに伝わるようにする。

研究組織図（次頁参照）



平成15年度の成果及び課題

成果

- ・児童の算数に関する意識調査では、「算数の学習が嫌い」と答えている児童はわずか10%でこれは前回調査したときより10%減少している。このことは、少人数指導のよさが児童にも分かってきているのだと思う。また、算数に関する意識の向上が学力の向上につながってきている。
- ・算数の授業が楽しいと答えている児童が74.1%となり、その理由には、道具を使えるから、ゲームやパズルがあるから、自分の力で解けるから等を上げている。このことから、日頃の学習の中で、教師が児童の興味関心を引き起こす教材教具を

工夫している結果の現れである。

- ・算数の学習で、67.0%の児童が多様な考え方で問題を解いている。これは、数学的な考え方を育てるため、思考力中心の授業を展開している結果と思われる。
- ・少人数授業やコース別学習で良かったことの原因に自分でコースが選べる、先生が自己評価カードにコメントを書いてくれる、いろいろな先生に教えてもらえる、やる気が出る問題が増えたと答えていることから、コースを選択することに意欲や楽しみをもっていることが分かり、プレテストを元にした、教師の指導が効果的で、児童が安心して学習に取り組める環境づくりをしていることが分かり、少人数授業の効果が現れている。
- ・少人数授業や習熟度別学習について「大変良い」と考えている保護者が8割と大部分を占め、「やらないでほしい」と回答している保護者はほんの少数で0に近いことから好意的に思っていると考えられ、効果的であると思われる。
- ・保護者の習熟度別学習に期待していることは、昨年同様「分からないことが分かるようになる」が最も多く、さらに、「やる気が出る」という回答が今年度は増加し、算数に対する意欲の向上が見られた。
- ・単元毎の自己評価カード(保護者からのコメント)や学校からの情報(学校だより、学年だより)を9割の保護者が目を通すようになり、保護者の理解と意識が高まった。
- ・コース分け用レディネステスト、事前テストを通して児童の算数に関する意識を高めると同時に、自分に合ったコースを選択することができるようになった。
- ・自己評価カードを記入することにより、児童が1単位時間に何が分かり何が分からないのかが明確となり、自己評価能力を高めることができた。
- ・個に応じたワークテストを活用することにより、児童が自分で選択して問題を解くことができるようになった。
- ・少人数指導により、学習の進度をきめ細かに把握できるので、適切な支援ができるようになった。
- ・チームを組んで指導するので、指導内容の共通理解が図れ、指導に生かすことができた。
- ・数と計算領域や図形の系統表を活用することにより、どの学年でどんな内容を学習しているかが明確になり、指導しやすくなった。
- ・単位時間のねらいを入れた算数評価補助簿を作成することにより、ポイントを押さえた指導できるようになった。また、評価と指導の一体化が図れるようになった。

#### 課題

- ・A規準の評価方法の改善と研究
- ・文章読解力や表現力、思考力を高める指導法の研究
- ・算数評価補助簿の見直し
- ・各指導体制の特徴を生かした指導計画の見直しと工夫改善
- ・保護者の協力と情報発信の工夫

学力把握のための学校の取組について

- ・ 定期的な学力調査の実施（年1回）
- ・ レディネステスト，事前テスト，事後テストの実施（単元毎）
- ・ 単元毎のワークテストの実施

フロンティアスクールとしての成果の普及

- ・ 授業研究会 【平成16年1月29日（木）】  
 場所：阿久津小学校にて実施済  
 対象：町内小中学校教職員・学校評議員・県内フロンティアスクール希望参加者
- ・ 説明会 【平成15年7月30日（水）】【平成15年11月27日（木）】  
 場所：高根沢町農村環境改善センター  
 テーマ：高根沢町学力向上対策部会  
 対象：町内小中学校教職員各学校1～2名
- 【平成16年2月23日（月）】  
 場所：塩谷教育事務所  
 テーマ：塩谷地区学力向上推進協議会  
 対象：塩谷地区小中学校学習指導主任・教務主任・教育事務所及市町教育委員会指導主事・学力向上フロンティアティーチャー
- 【平成16年2月18日（水）】  
 場所：阿久津小学校体育館  
 テーマ：本年度の本校の取組について～少人数授業を実施して～  
 対象：阿久津小学校保護者

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）  
 （ チェック）

|                      |            |            |      |    |
|----------------------|------------|------------|------|----|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 |      |    |
| 【学校規模】               | 6学級以下      | 7～12学級     |      |    |
|                      | 13～18学級    | 19～24学級    |      |    |
|                      | 25学級以上     |            |      |    |
| 【指導体制】               | 少人数指導      | T・Tによる指導   |      |    |
|                      | 一部教科担任制    | その他        |      |    |
| 【研究教科】               | 国語         | 社会         | 算数   | 理科 |
|                      | 生活         | 音楽         | 図画工作 | 家庭 |
|                      | 体育         | その他        |      |    |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |            |            | 有    | 無  |